

## 第1章 現況の整理

---

---

## 第1節 社会状況の変化

### 1 人口等

本市の人口は、昭和55年から減少を続けており、特に都市景観形成地域に指定されている西部7町（船見町、弥生町、弁天町、大町、末広町、元町、豊川町）の人口は、昭和60年から約半減（▲7,201人）し、著しく減少している。

世帯数は、全市では増加しているが、西部7町では昭和60年から約32%減少しており、一世帯当たりの世帯人員も約2.78人から1.98人と大きく減少している。

また、65歳以上の高齢者数は、人口減少とは逆に増加し、高齢化率が全市では30%を超えており、西部7町では約40%と、全市と比べ高率となっている。

人口の推移				
人口	昭和60年 (1985年)	平成7年 (1995年)	平成17年 (2005年)	平成27年 (2015年)
全市 (人)	342,540	318,308	294,264	265,979
増減率 (対S60)	-	0.93	0.86	0.78
西部7町 (人)	14,074	10,278	8,512	6,873
増減率 (対S60)	-	0.73	0.60	0.49

(国勢調査)

世帯数・一世帯当たり世帯人員の推移				
世帯数	昭和60年 (1985年)	平成7年 (1995年)	平成17年 (2005年)	平成27年 (2015年)
全市 (世帯)	116,977	125,189	128,411	123,950
増減率 (対S60)	-	1.07	1.10	1.06
一世帯当たり世帯人員 (人/世帯)	2.88	2.51	2.10	2.14
西部7町 (世帯)	5,056	4,396	4,418	3,476
増減率 (対S60)	-	0.86	0.87	0.68
一世帯当たり世帯人員 (人/世帯)	2.78	2.34	1.92	1.98

(国勢調査)

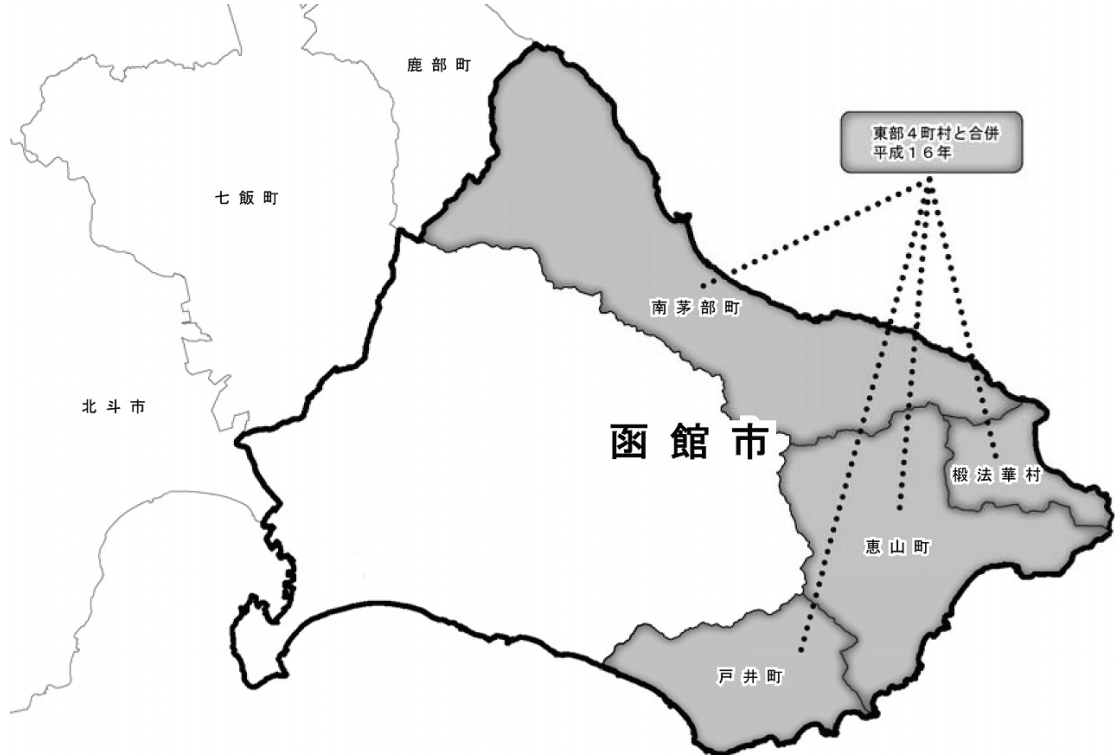
65歳以上の高齢者数・高齢化率の推移				
高齢者数	昭和60年 (1985年)	平成7年 (1995年)	平成17年 (2005年)	平成27年 (2015年)
全市 (人)	36,644	52,607	70,459	85,931
高齢化率	10.7%	16.5%	23.9%	32.3%
西部7町 (人)	2,184	2,450	2,706	2,744
高齢化率	15.5%	23.8%	31.8%	40.1%

(国勢調査)

(注) 平成7年以前の人口等については、現在の市域に組み替えた内容としている。

## 2 市街地の状況

市域は、昭和63年時点で約348km<sup>2</sup>であったが、東部4町村の地域が平成16年（2004年）に加わり、現在では約678km<sup>2</sup>となっている。



市域の拡大とともに、市街地の拡大も行われてきたが、人口および世帯数の減少に伴い、空家の割合が多くなっている。

空家数と空家率の推移		(単位：戸)			
空家数	平成15年 (2003年)	平成20年 (2008年)	平成25年 (2013年)	平成28年 (2016年)	
全市	20,640	25,080	22,530	—	
空家率	15.4%	16.9%	15.6%	—	
西部7町	154	136	234	237	

(全市：各年住宅・土地統計調査)

(西部7町：都市建設部調査)

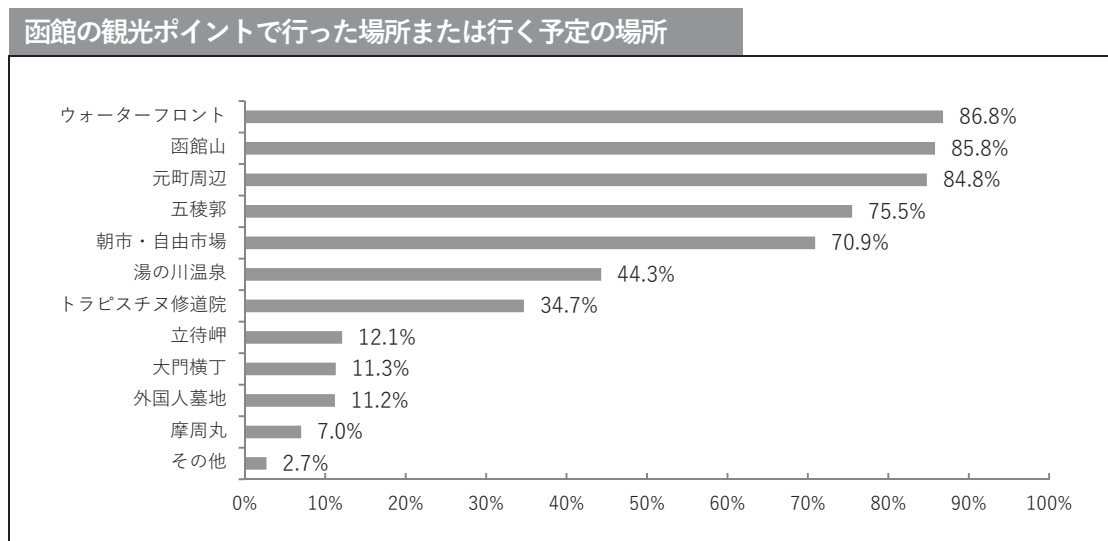
### 3 観光・経済

本市を訪れる観光客数は、昭和60年度当時は、年間約270万人であったが、赤レンガ倉庫群があるベイエリアの拠点整備などを機に、平成に入ってから急激に観光客数が増加し、平成28年度には、新幹線開業による効果も伴い年間約560万人が来函している。

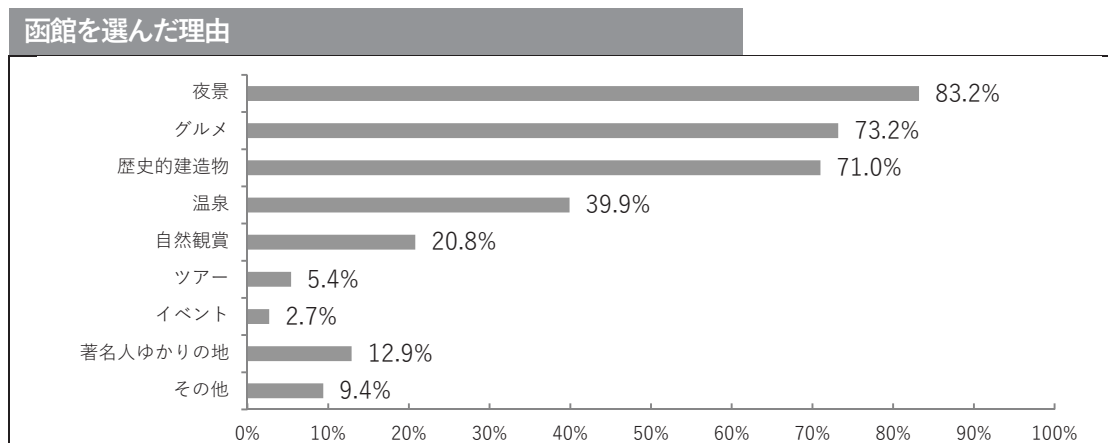
また、観光アンケート調査によると、函館を訪れる観光客のほとんどが、ウォーターフロントや歴史的建造物が建ち並ぶ元町周辺を訪れている。

年間観光入込客数の推移		(単位：千人)			
	昭和60年度 (1985年度)	平成7年度 (1995年度)	平成17年度 (2005年度)	平成28年度 (2016年度)	
年間観光入込客数	2,729	4,930	4,843	5,607	
増減率(対S60)	—	1.81	1.77	2.05	

(来函観光入込客数推計)



(平成27年度 観光アンケート調査)



(平成27年度 観光アンケート調査)



## 第2節 景観行政の経過

本市では、西部地区の歴史的景観を市民共有の財産として、後世に引き継いでいくことを目的に、昭和63年度に「函館市西部地区歴史的景観条例」を施行し、西部地区の歴史的な町並みの保全に努め、平成7年度には、市内全域を対象とした「函館市都市景観条例」へと移行し、大規模な建築物等の景観誘導など各種施策を推進してきた。

これまでの景観行政の経過	
年度	事項
昭和57・58	函館市西部地区伝統的建造物群調査
昭和58	函館市西部地区住環境整備調査
昭和63	函館市西部地区歴史的景観条例施行 歴史的景観地域（約120ha）の指定、景観形成基準の設定 函館市西部地区歴史的景観地域景観形成基本計画の策定 伝統的建造物群保存地区（約14.5ha）の指定 伝統的建造物群保存地区保存計画の策定 景観形成指定建築物等に係る保全基準の設定 景観形成指定建築物等の指定 函館市歴史的地区環境整備街路事業調査報告書の作成
平成03	函館市都市景観構成要素調査の実施
平成04	都市景観市民アンケート調査の実施 函館市都市景観形成基本計画調査の実施 函館市西部地区歴史的町並み基金の設置および管理に関する条例施行
平成05	函館市元町末広町伝統的建造物群保存地区内における建築基準法の制限の緩和に関する条例施行
平成07	函館市都市景観条例施行 函館市都市景観形成基本計画の策定 都市景観の形成のための誘導に係る基準の設定
平成08	公共空間のあり方についての指針の策定
平成09	パブリックアート設置の基本的考え方策定
平成17	函館市屋外広告物条例施行
平成20	函館市景観計画の策定
平成24	景観形成街路沿道区域の指定 広告景観整備地区の指定 景観デザイン指針の策定
平成25	景観登録建築物の登録
平成27	函館市景観整備機構の指定

### 第3節 都市景観に対する市民意識

景観に対する市民意識や、景観施策の認知状況等を把握し、今後の景観まちづくりに反映するため、北海道教育大学との協働により平成29年2月に「函館市の景観と暮らしに関する市民アンケート調査」を実施した。

調査項目は、市民意識の変化を把握する必要があることから、平成4年度に実施した「都市景観市民アンケート調査」を基本とした。

#### 1 調査の内容

- |         |   |
|---------|---|
| (1)調査地域 | 函館市全域   |
| (2)調査対象 | 函館市内に居住する満18歳以上の男女                              |
| (3)調査数  | 1,000人  |
| (4)抽出方法 | 無作為抽出法<br>(市内を6区域に区分し、その調査対象者数の人口比率が同率になるように設定) |
| (5)調査方法 | 調査票を郵送し、返信用封筒で回収                                |
| (6)調査期間 | 平成29年2月13日～2月28日                                |
| (7)回答数  | 436票(回答率:43.6%)                                 |

#### 2 調査区域の設定

- ・ 函館市都市計画マスタープランにおける区分を採用



3 調査結果

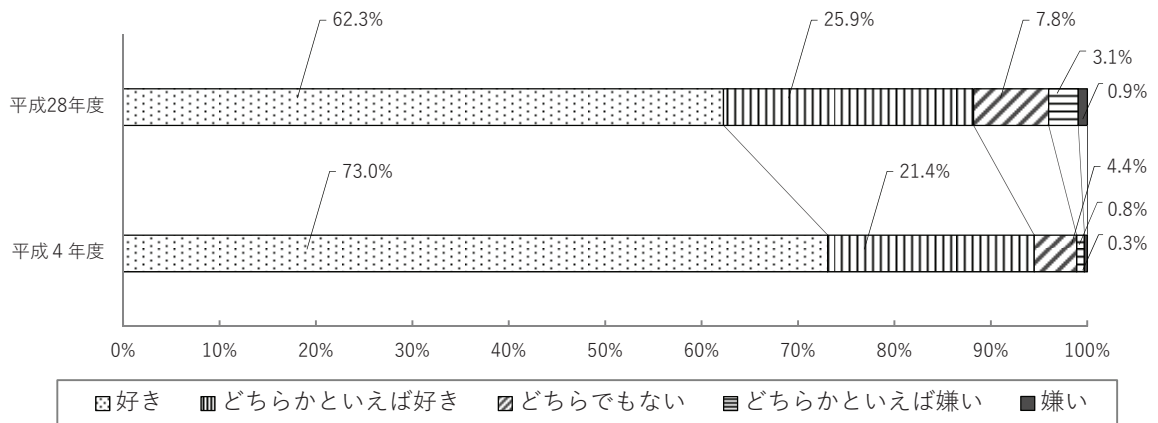
n = サンプル数

函館について

あなたは函館のまちが好きですか。(1つ選択)

【問1】

(H28) n=424 : (H04) n=607

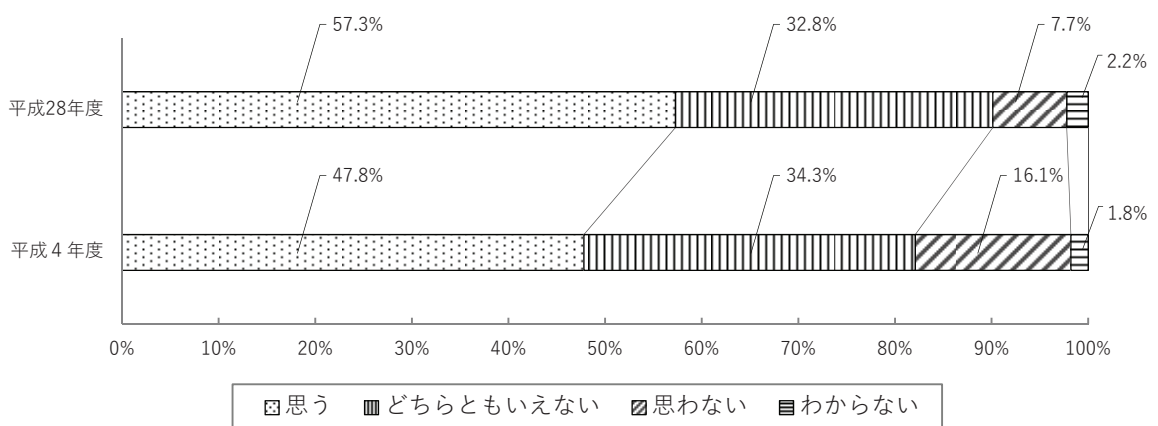


回答者の約9割が「好き」「どちらかといえば好き」としていることから、市民のまちに対する好感度は極めて高いものとなっているが、前回調査と比較すると低減している。

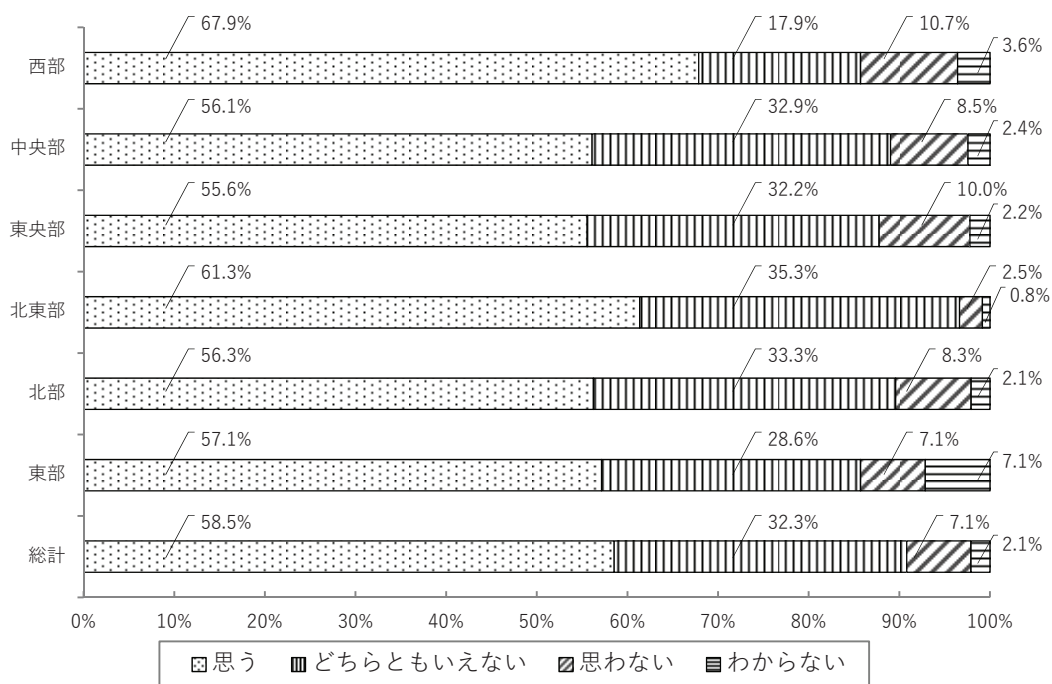
あなたは函館を美しいまちだと思いますか。(1つ選択)

【問2】

(H28) n=405 : (H04) n=609



回答者の約6割が「函館を美しいまち」だと思っており、前回調査と比較して、10ポイント上昇している。

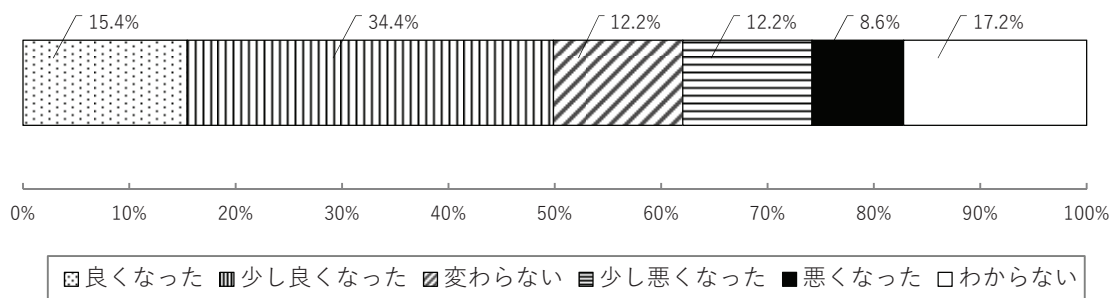


回答者の意識を地区別で見ると、都市景観形成地域を含む西部地区の居住者の約7割が「函館を美しいまち」だと思うとしており、全市平均を10ポイント上回っている。

### 函館の景観について

函館の景観は以前(約20年前)と比べてどうなったと思いますか。(1つ選択)

【問7】  
n=422



函館の景観の変化に対しては、約半数が「良くなった」「少し良くなった」としている一方で、約2割が「悪くなった」「少し悪くなった」としており、景観改善の取組の必要性がうかがえる。

函館のまち並みや景観でよいと思うところを選んでください。(3つ以内選択)

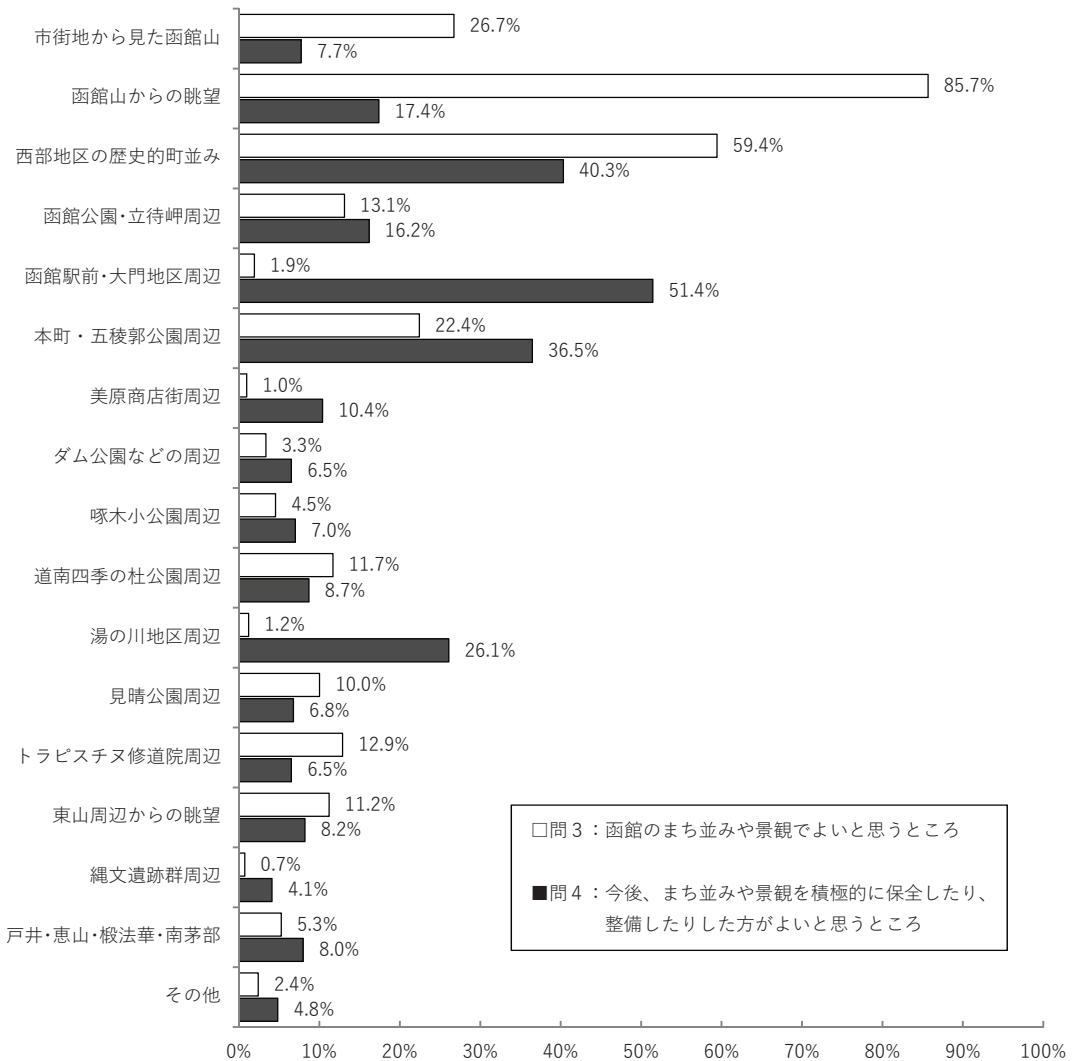
【問3】

n=419

今後、まち並みや景観を積極的に保全したり、整備したりした方がよいと思うところを選んでください。(3つ以内選択)

【問4】

n=414

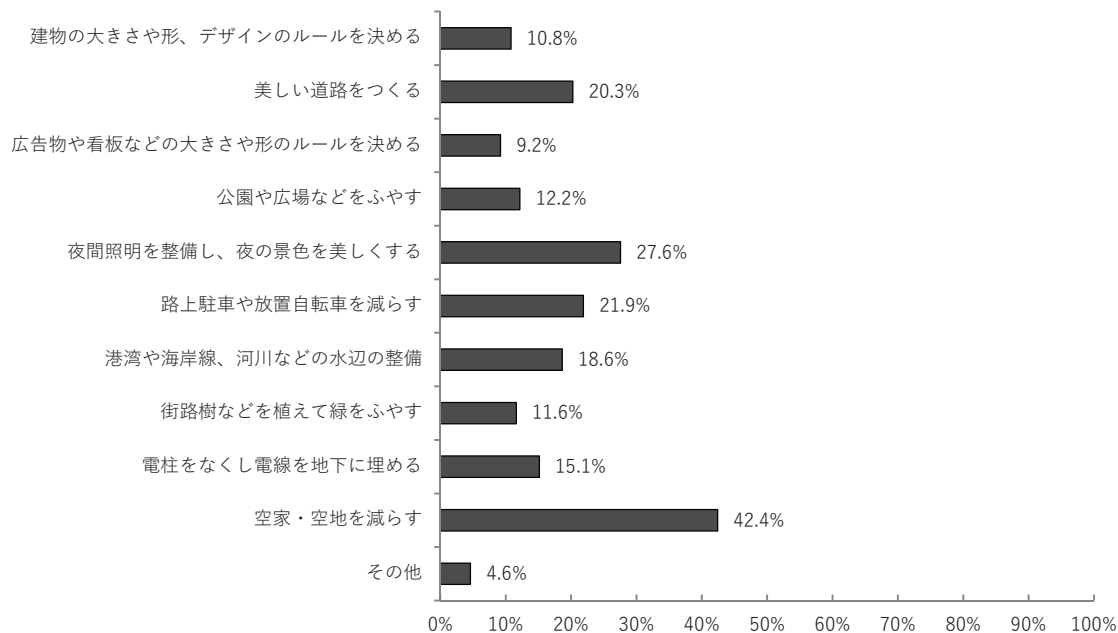


函館のまち並みや景観で良いと思うところとしては、「函館山からの眺望」「西部地区の歴史的町並み」「市街地から見た函館山」「本町・五稜郭公園周辺」の順で多く、函館山からの眺望景観や自然景観、西部地区の町並みに対する評価が高いものとなっている。

一方、今後のまち並みや景観を保全・整備すべきところとしては、「函館駅前・大門地区周辺」「西部地区の歴史的町並み」「本町・五稜郭公園周辺」「湯の川地区周辺」の順で多く、特に「函館駅前・大門地区周辺」と「湯の川地区周辺」の商業業務拠点については、多くが景観改善を望んでいることがうかがえる。

まちの美しさを向上させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(2つ以内選択)

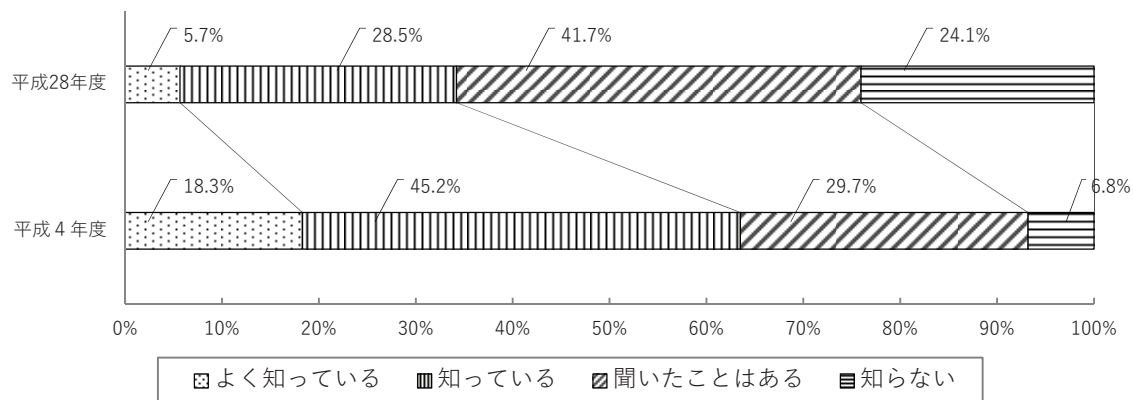
【問5】  
n=370



まちの美しさを向上させるために必要なこととしては、「空家・空地を減らす」が全体の約4割と最も多く、次いで「夜間照明を整備し、夜の景色を美しくする」「路上駐車や放置自転車を減らす」「美しい道路をつくる」の順となっており、空家・空地の存在がまちの美しさの主な阻害要因と感じていることがうかがえる。

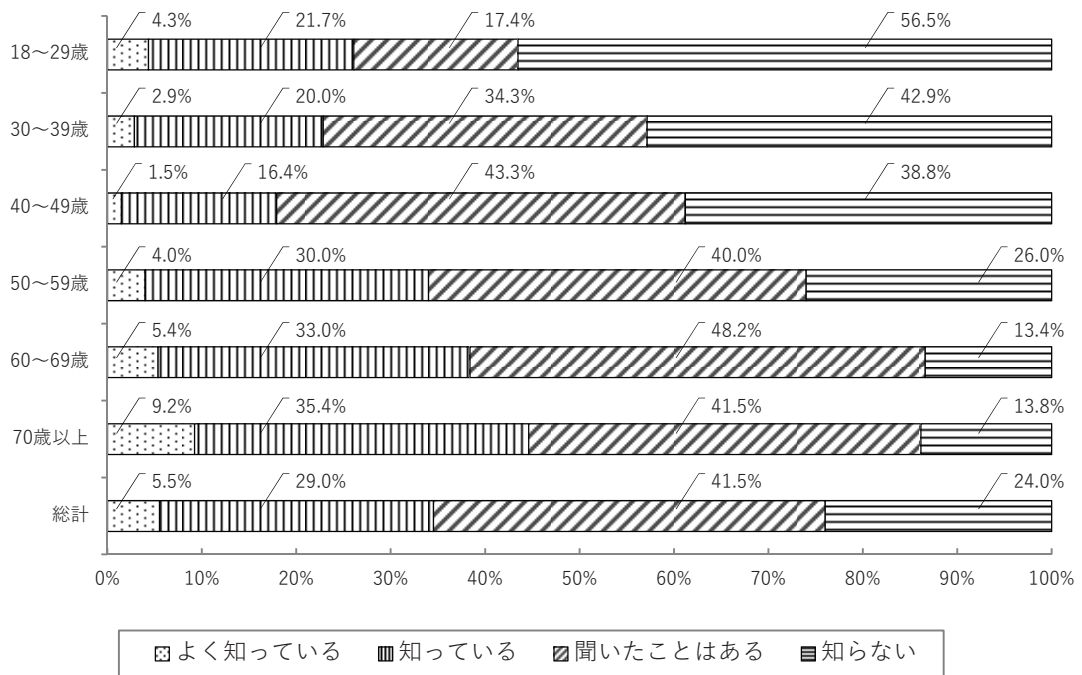
函館市では、昭和63年に「函館市西部地区歴史的景観条例」、平成6年に「函館市都市景観条例」を制定し、歴史的な町並みの保全など良好な都市景観を形成するための取り組みを進めてきましたが、あなたはこれらの取り組みをご存じですか。(1つ選択)

【問6】  
(H28) n=424 : (H04) n=606



景観行政に対する認識としては、「よく知っている」「知っている」が回答者の約3割程度にとどまっており、前回調査と比較すると半減している。

良好な景観形成に向けた取組の必要性が高かった前回調査時よりも、景観行政に対する認識が薄れている。



また、景観行政に対する認識を年齢別で見ると、50歳以上は「よく知っている」「知っている」が回答者の全体平均を上回っているが、40歳代以下の認識が低いものとなっている。

## 第4節 都市景観形成地域の町並みの変化

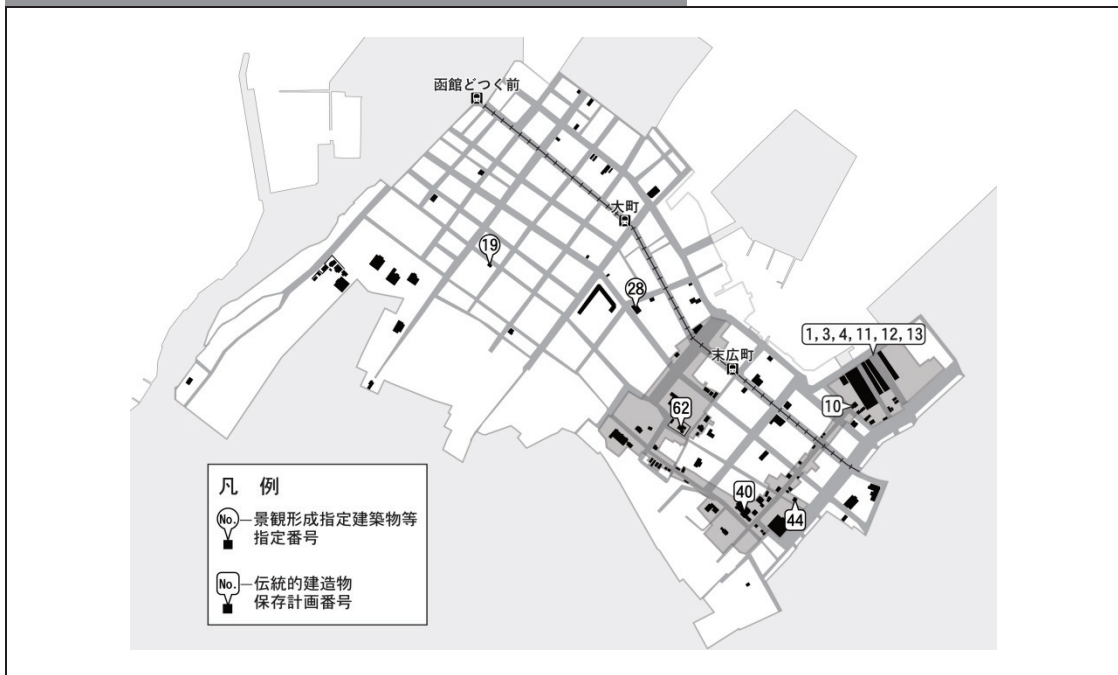
都市景観形成地域の町並みの変化について、景観条例制定前（昭和60年代）と現在の状況を写真により比較した。

### 【撮影箇所図】

#### 坂道・通り沿い



#### 歴史的建造物周辺





二十間坂

昭和60年代



平成28年度

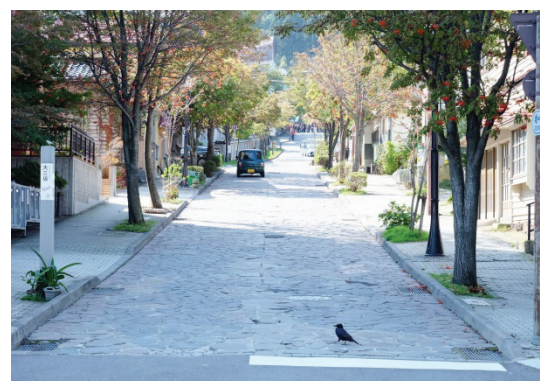


大三坂

昭和60年代



平成28年度



※国土交通省が定めた「日本の道100選」に認定された。

八幡坂

昭和60年代

平成28年度



※第18回 全国街路事業コンクール 特別賞を受賞

日和坂

昭和60年代

平成28年度





基坂

昭和60年代

平成28年度



※第7回 全国街路事業コンクール 特別賞を受賞

常盤坂

昭和60年代

平成28年度





姿見坂

昭和60年代

平成28年度



幸坂

昭和60年代

平成28年度





千歳坂

昭和60年代

平成28年度



港が丘通

昭和60年代

平成28年度





道道函館漁港線

昭和60年代

平成28年度



西部臨港通

昭和60年代

平成28年度



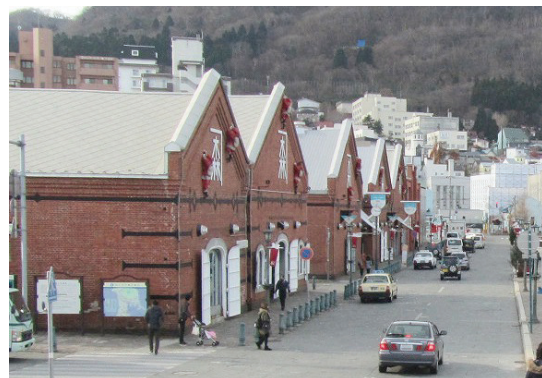


① BAYはこだて

③ ④ ⑪ ⑫ ⑬ 金森倉庫群 周辺

昭和60年代

平成28年度



⑩ ラ・コンチャ 周辺

昭和60年代

平成28年度





40 カトリック元町教会 周辺

昭和60年代

平成28年度



44 旧カール・レイモン居宅 周辺

昭和60年代

平成28年度





⑥2 旧相馬邸 周辺

昭和60年代

平成28年度



①9 岩崎家住宅店舗 周辺

昭和60年代

平成28年度



②8 中華会館 周辺

昭和60年代

平成28年度





地域外からの眺望

昭和60年代

平成28年度

